

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	872105002		
法人名	オークス福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームオークスひたちなか		
所在地	ひたちなか市佐和787 (電話) 029-285-4165		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年5月8日

【情報提供票より】(平成19年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月29日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤12人, 非常勤1人, 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000円	その他の経費(月額)	22,050円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(54,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	315円	昼食	420円
	夕食	420円	おやつ	105円
	または1日当たり 1,260円			

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18名	男性	11名	女性	7名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	69歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いばらき診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、このホームで受けたいと思えるサービスの提供、自分が住みたいと思える環境づくりを理念とし、運営者や職員が一丸となって理念の実現に向けて利用者の支援にあたっている。
ホームは運営者が複数のグループホームを見学等をする中で培ったノウハウを基に、床材にコルク材の活用や掃き出し窓の設置など、利用者が安全に安心して生活が送れるよう工夫して建てられている。
職員は利用者に絵画や散歩、理美容院での整髪など、利用者の希望を聞いて、利用者の希望に沿った支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で課題となった、買い物時の金銭の支払い、職員と利用者が一緒に食事を食べる環境づくり、利用者が出来る事の場面作りなどの改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価を受審するにあたり、職員に説明している。 自己評価を実施するにあたり、職員全員で実施するには至っていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に運営推進会議を開催している。 会議では、介護の取り組みについての報告、習字の指導者や利用者の囲碁の相手など、協力者について相談している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情の窓口や担当者の配置及び市役所の外部機関を重要事項説明書に明示している。 意見箱の設置や家族会の行事の時にボランティアなどの第三者が意見や要望等を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入するとともに、隣接する障害者施設の利用者との交流や運動会等で地域の方々との交流している。 小学生の総合学習の受け入れ以外にも、近所の小学生が遊びにきている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者や職員がこのホームで受けたいと思えるサービスの提供、自分が住みたいと思える環境づくりを目指した運営理念のもと、地域と協働してホーム運営ができるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事務室に掲示するとともに、申し送り時に理念を確認するため唱和している。 また、理念の実践に向け職員間で話し合いながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入するとともに、隣接する障害者施設の利用者との交流や運動会等で地域の方々と交流している。 小学生の総合学習の受け入れ以外にも、近所の小学生が遊びにきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受審するにあたり、職員に説明している。 自己評価を実施するにあたり、職員全員で実施するには至っていない。 前回の外部評価で課題となった、買い物時の金銭の支払い、職員と利用者が一緒に食事を食べる環境づくり、利用者が出来る事の場面作りなどの改善に取り組んでいる。	○	自己評価に職員も取り組むことは、ホームの良い所や課題等を理解する上でも役立つので、職員間で話し合う機会を設けるなど、自己評価に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。会議では、介護の取り組みについての報告、習字の指導者や利用者の囲碁の相手など、協力者について相談している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課とは、訪問時に意見交換を行っている。また、利用者の安全に配慮するため警察に、感染症等の発生状況等の対応や情報交換を保健所と行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「おーくす便り」に行事の様子や写真等を金銭管理出納帳を添えて家族に送付している。また、利用者の健康状態や暮らしぶりについて、電話やファックスなど、家族の状況に応じて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口や担当者の配置及び市役所の外部機関を重要事項説明書に明示している。意見箱の設置や家族会の行事の時にボランティアなどの第三者が家族から意見や要望等を聞いている。	○	家族等の状況等に配慮し、ホームの運営に関する意見や要望等について、アンケートを実施することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの職員間で親睦会を設置し、食事会等を行い親睦を図るとともに、リフレッシュ休暇を取れるよう配慮している。また、利用者のユニット間の往来を自由にしたたり、散歩を一緒に行うなどにより、職員と話す機会を設けるなど、職員の離職や異動によるダメージを抑える配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に対応マニュアルを配布するとともに、OJT等を実施している。 また、外部研修を受講できるよう勤務体制に配慮するとともに、資格取得の支援や介護に関する内部研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協議会に加盟している。 また、運営者等が他のホームを視察したり、管理者等が他のホームや介護支援事業所と情報や意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたり、体験入所の受け入れ、自宅への訪問、本人の情報を把握するための面接等を行っている。 また、本人の情報を把握するにあたり、利用者担当の介護支援専門員と情報交換を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことや経験を職員が把握するとともに、手芸品や家事、歌などの場面作りを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や買い物、理美容等の外出に関する意向を利用者から聴取している。 把握が困難な場合は、家族の面会時や面接時に意向を聴取するとともに、職員間で意見交換を行いながら、把握に努めている。 また、少人数でも利用者の希望があれば対応できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたり、本人や家族からの意見や要望を聴取するとともに、利用者を担当していた介護支援専門員からも情報を聴取し、介護計画を作成している。 また、申し送りの時間を利用して利用者の課題とケアの対応について話し合いを行うとともに、課題等について介護計画に反映している。	○	現在家族会等の機会を利用して個別の面接等を企画しているので、実現できるよう取り組むとともに、聴取した情報や意見を介護計画等に反映することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3、6ヶ月の期間に応じた見直しのほか、利用者の体調の変化等に応じた随時の見直しを行っている。 見直し際には、職員間で話し合うことはもとより、家族の意見や要望を聞いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の体制を取得し、安心してホームで生活するための体制を整備するとともに、通院、理美容、喫茶店の利用など、利用者の要望に応じた支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、利用前のかかりつけ医の診察が受けられるよう配慮している。 協力医療機関の月4回の往診のほか、利用者の状態に応じて、脳外科や精神科などの専門医に受診することができる体制を整備している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、ホームの方針を決め、「看取り介護についての同意書」により、家族に説明し、同意を得ている。 また、対応についてかかりつけ医や協力医療機関と話し合いを行っている。	○	重度化や終末期の対応指針等を定めているので、方針について職員や家族に周知を図り、共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事時の声かけやトイレの誘導など、誇りやプライバシーを損ねない支援を行っている。 個人情報の公開に関する同意を得るとともに、個人の書類は、事務所の鍵のかかる書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	絵画や散歩、理美容院での整髪など、利用者の希望を聞き、利用者のペースで生活が送れるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者に食事の準備、おやつ作り、配膳、食器の後片付けなど、声をかけながら一緒に行っている。 また、利用者の好きな物を把握するとともに、誕生会などの行事や外食時に食べることができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に入浴の希望時間を聞いて、入浴できるように配慮している。 また、利用者に季節感を感じたり、楽しんでもらうことができるよう、菖蒲湯やゆず湯、入浴剤の活用、ブローバスの設置などの工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が好きなことや得意なことを活かせるよう、習字や絵画、手芸品の作成、理美容院での整髪など、利用者の楽しみごとや気晴らしができるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、外食などの外出する際に、利用者一人ひとりの希望を聞いている。 また、ウッドデッキを設置しており、天気の良い日は外で日光浴をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や管理者は鍵をかけることの弊害について、会議等で周知しており職員も理解している。 利用者の外出を察知したときは、見守りやホームの敷地内を散歩させるなど、止めることのない支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは、火災や地震時に、利用者や職員が避難しやすい、支援しやすいよう配慮している。 隣接する障害施設との合同の避難訓練やホーム単独での避難訓練を行っているが、利用者と一緒に実施するには至っていない。	○	職員間の避難訓練ばかりでなく、利用者を交えた避難訓練を実施することが望まれる。 また、災害時に備えた非常食の備蓄について、検討することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が利用者の状態や病状、栄養バランスに配慮した献立を作成し、食事を提供している。 また、利用者一人ひとりの食事や水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間はゆとりがある設計が施されており、床暖房やエアコンにより、温度調節を行っている。 廊下は車椅子の利用者でもすれ違える十分な幅を確保している。 中庭や居室の周囲にウッドデッキを設置しており、布団干し、バーベキュー、日光浴などで活用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆などの家具や椅子、家族の写真を持ち込むとともに、自分で描いた絵画等を掲示するなど、利用者が安心して生活できるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。